

第7 2回日本PTA全国研究大会川崎大会 地方協議会活動事例推薦用紙

ブロック協議会名	関東ブロックPTA協議会	ブロック協議会 会長名	濱詰 大介
被推薦 地方協議会名	千葉県PTA連絡協議会	被推薦 地方協議会会長名	木村 得道

推薦した理由を教えてください（川崎大会のスローガンに照らしてみても可）
※本欄はブロック協議会会長が記入をお願いします。

県単位の取り組みとして推薦させていただきます。全国大会もそうですが会員の皆さんに「研究大会」について意義や認識を改めて確認することで、学びの機会の提供について皆さんと考えられればと思います。実際におこなった新しい取り組みを通して、PTAという団体内外の連携をご紹介できるかと思っています。

活動事例の名称

（仮）関東ブロック研究大会ちば大会を通して研究大会の新しいカタチを考える

1. 活動の内容を紹介してください

千葉県では令和5年度に関東ブロック研究大会を担当しました。コロナ後ということもあり、参加者はもちろん運営側も改めて研究大会の意義を見直す必要があり、新しい取り組みを通してそれについて理解をいただけるように努力をしました。その取り組み内容をご紹介することで社会教育団体であるPTAのあり方を皆さんと考えられれば良いと思います。

2. 何故その活動に取り組んだのか背景（課題等）や目的を教えてください

研究大会のテーマの設定、分科会のあり方の見直しをして、研究大会そのものについて参加者の皆さんの理解が深まるような内容に努めました。学びを受けるだけではなく参加型の分科会を目指しパネルディスカッションなどを取り入れました。募集方法や入場方法などなるべく簡素化することで運営側の負担を軽減することを目指しました。

3. 活動に協力してくれた「PTA以外」の団体や企業とのつながり（ご縁）について教えてください

分科会については初めて企業提案を取り入れ、PTAだけではなく地域や企業が目線でPTAの新しいカタチが模索できるように設定をしました。我々ではなかなかわかりづらい部分も丁寧に説明していただきPTA活動の参考になるようなお話もいただきました。

4. 活動を通して貴協議会の役員や理事にどのような変化がありましたか。また、貴協議会に所属する学校PTAの会員にどのような変化がありましたか。

研究大会についての見方が変わったように思います。今まではただ参加するだけといった位置づけだったかもしれませんが、当事者にまわることで意義について考えるようになり、その必要性や意義などについて考えるきっかけになったと思います。参加者側ではわからない発見等も発表させていただければと思います。